

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液や手術時に留置したドレーンの排液）を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや保管されている試料（血液・ドレーン排液）を利用することにご了解いただけない方は、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

予防的腹腔内ドレーン留置法と膵体尾部切除後の膵漏発生の関係に関する後ろ向き研究

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院

【研究機関の長】 杉山隆（病院長）

【研究責任者】 永岡智之（肝胆膵・移植外科 医員）

【研究の目的】

過去に当院を受診され膵体尾部切除を受けた患者さんの診療録（カルテ）の情報を収集し、術中に使用した予防的腹腔内ドレーンの留置法と膵瘻発生の関係を調べる研究を行うことといたしました。この研究は膵体尾部切除後に発生する膵瘻の予防方法の検討を目的としたものであり、その結果は今後の診療にも役立てられると考えています。

【研究の方法】

（対象となる患者さん） 2009年1月から2022年4月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち膵体尾部切除術を受けた患者さん

（利用するカルテ情報） 性別、年齢、体重、身長、生活習慣（喫煙歴、飲酒歴）、既往歴（糖尿病）、血液検査データ、腹腔内ドレーン排液データ、画像検査データ、手術の詳細（手術時間、出血量、予防的腹腔内ドレーンの留置位置、膵切離方法など）、術後合併症（膵瘻、腹腔内出血）、術後在院日数、再入院の有無、再手術の有無など。

（利用する試料） 血液検査や腹腔内ドレーン排液に関して、カルテ情報のみ利用

します。

【個人情報の取り扱い】

収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

<試料・情報の管理責任者> 愛媛大学医学部附属病院 肝胆膵・移植外科
永岡智之

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、**【お問い合わせ先】**までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院肝胆膵・移植外科 永岡智之
791-0295 愛媛県東温市志津川
Tel: 089-960-5327